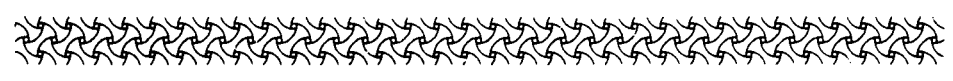


# 学内広報



2002. 7. 10  
東京大学広報委員会

## 第10回日本語スピーチ発表会開催される —人文社会系研究科—



(2 ページに関連記事)

### 目次

一般ニュース .....	2	総長の海外出張		掲示板 .....	7
部局ニュース .....	2	人文社会系研究科・文学部で外国人留学生等との懇親会開かれる、「第10回日本語スピーチ発表会」開催される、第29回医科研シンポジウム開催される、IMSUT幹細胞シンポジウム開催される、生産技術研究所一般公開行われる、平成14年度第1回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される、国立大学留学生センター留学生指導担当研究協議会開催される、CCR産学連携シンポジウム開催される		大学史料室閲覧業務再開のお知らせ、山上会館・山上会館龍岡門別館の夏季休館について、山上会館研究室（宿泊室）の臨時閉室について、学生相談所主催「アサーション（自己表現）セミナー」のお知らせ、第17回工学部・工学系研究科技術発表会のお知らせ、第4回樹芸研究所体験セミナー『森の夏休み』参加者募集！！、教養学部で第94回オルガン演奏会の開催、「教養学部報」第458（7月3日）号の発行、第4回人工物工学コロキウム	
				事務連絡（人事異動（教官）） .....	11
				淡青評論「言葉と立場」 .....	12

≡ 一般ニュース ≡

総長の海外出張

佐々木総長は、平成14年7月21日（日）～平成14年7月24日（水）の期間、中国国際大学長フォーラム出席のため、中華人民共和国へ出張する。

≡ 部局ニュース ≡

人文社会系研究科・文学部で外国人留学生等との懇親会開かれる

6月26日（水）午後6時から、山上会館地下食堂において、文学部主催の外国人留学生・研究員及び外国人スタッフとの懇親会が開かれた。

懇親会には、文学部及び大学院人文社会系研究科に在籍する15カ国の外国人留学生・研究員等約70名と関係教職員約60名及び留学生博士論文作成支援ボランティア・ネットワークである「三金会」の先生方8名が参加。まず佐藤研究科長の挨拶があり、続いて木村国際交流委員会委員長の発声で乾杯したのち、懇談が始まった。

懇談は、終始和やかな雰囲気の中盛会に行われ、途中に「三金会」の先生を代表して、久野 猛（元日比谷高等学校校長）氏から「三金会」の名称の由来や活動状況等を踏まえた留学生とのエピソードを中心に心温まるご挨拶があり、続いて留学生のパフォーマンスとして、御殿下記念館でインストラクターとして活躍している社会情報学専門分野のバリューストロム、ヨアキムさん（スウェーデン）が、得意の「エアロビクス」を披露し、参加者の多くが共に汗を流した。最後に留学生を代表して、台湾の鄭秀娟（博士課程3年）さんの謝辞があり、大変流暢な日本語の挨拶は、参加者すべてに感銘をあたえた。

今年の話題としては、各教官や来賓の挨拶の中にワールドカップの話が述べられ、留学生との会話にも華やかな話題となり、楽しいひと時を過ごすことができ、午後



佐藤研究科長



留学生代表鄭秀娟さん



三金会のみなさん

8時に盛況のうちに閉会した。

（大学院人文社会系研究科・文学部）

「第10回日本語スピーチ発表会」開催される  
—人文社会系研究科—

7月3日（水）午後2時半より、人文社会系研究科において、恒例の外国人留学生による「第10回日本語スピーチ発表会」が開催された。この発表会は毎年、同研究科の国際交流室が主催している。

同研究科は、在籍している留学生の70%以上を東アジアからの留学生が占めているのが特徴で、例年この発表会では韓国をはじめとする東アジアの学生の発表が多い。しかし、10回目に当たる今回は、中国、台湾の東アジアからの留学生に加えて、バングラデシュ、トルコ、オーストラリア、ロシア、コンゴからの留学生が出場し、総勢10名の国際色豊かな発表となった。それぞれの視点からのもの見方や日本での経験、自国文化の紹介など、発表内容もバラエティーに富んでいた。

1番の黄崇修さん（台湾）は『台湾の座禅について』という演題で、台湾の座禅ブームについて終始にこやかに紹介した。2番のフセイン・ドウラクオグルさん（ト

ルコ)は『トルコの教育と言語』と題して、堂々とした語り口でトルコの文字改革の教育に対する影響や、教育が一部外国語でなされている現状を語り、日本の漢字についても、外国人にとっては難しく苦勞するが、日本文化にとっては大切だと一言言い添えた。3番のポール・ソールズベリーさん(オーストラリア)は『政府主導の野蛮主義』で、日本の環境破壊に対する政府の取り組みを鋭く批判すると同時に、国民の環境への意識の遅れを指摘した。4番、何平さん(中国)は『祭りから見た日本』と題して、祭りを通して体験した日本文化との触れあいを語った。サッカーW杯のブラジル優勝の直後だけに、浅草サンバカーニバルへのコメントはなかなか興味深かった。5番、シャオリ・シャヒドさん(バングラデシュ)は昨年10月に来日、留学生センターで日本語を学びはじめた学生であるが、『バングラデシュの人口問題』についてグラフを用いてわかりやすく簡潔に述べ、関係者を感じさせた。6番、楊學琳さん(台湾)は今回唯一、他研究科(農学)から出場した留学生だが、『日本の「食」の国際化』という演題で、料理が国際化しただけではなく、食材も国際化している日本の食事情を踏まえて、食の安全性への国民の意識の希薄さへの警告を述べた。7番、『東大での三ヶ月』を発表した王恵姿さんは静かな語り口ながらもユーモアを交えつつ、図書館の利用や宿舎に関しての留学生への配慮を訴えた。8番、『世界は一つ』のトコ・ルケバナさんはコンゴ民主共和国出身、同研究科では珍しいアフリカからの留学生で、実体験から日本社会に未だに残る人種差別を語り、グローバル化の中にありながら、実際に世界が一つになることの難しさを語った。9番、陳燕琪さん(中国)は『日本人の結婚観について』で、国際結婚によって感じた、男性主導の日本社会における女性に対する差別意識の根深さを述べ、日本人の結婚観の保守性を指摘した。10番のエカテリーナ・グトワさん(ロシア)は『ロシアの空間と日本の空間』と題して、広大なロシアと島国日本の、空間に対する国民の意識の違いを比較し、空間が国民に与える影響を語った。

佐藤慎一同研究科長の挨拶、木村英樹同研究科国際交流委員長からの講評のほかは留学生が会を進行した。司会役の崔偉達さんは今回は発表を断念したが、名司会ぶりに会場は沸き、終始和やかな雰囲気にも包まれた。発表会への来場者に対して行われたアンケートにも温かい感想が寄せられた。発表会の後で開かれた茶話会は小さな国際交流の場となった。ただ、残念なのは、若い日本人学生の聴衆が少なかったことである。来年も同時期に開催されるであろうこの発表会にぜひ若い学生達が足を運んでくれることを期待したい。

(大学院人文社会系研究科・文学部)

## 第29回医科研シンポジウム開催される

医科学研究所は1967年に伝染病研究所から改組され設置されたもので、医科研シンポジウムはその創立を記念して1974年より毎年6月1日前後に開催されてきた。今年5月31日(金)午後、医科学研究所講堂において、恒例の記念シンポジウムが開催された。本研究所は、改組から数えて35年、北里柴三郎が大日本私立衛生会附属伝染病研究所を1892年に創設してから110年にわたり、病気との闘いの歴史を刻んでいる。

今回は「遺伝子治療の新たな展開に向けて」というテーマに基づいてプログラムが構成された。

新井賢一所長の開会の辞に引き続き、当研究所先端医療研究センター長及び医科学研究所附属病院長の浅野茂隆教授による「遺伝子治療開発とTranslational Research」、同じく感染・免疫大部門伊庭英夫教授による「エピジェネティクスに基づいた新しいレトロウイルスベクターの設計」、同じく先端医療研究センターの北村俊雄教授による「レトロウイルスベクターを利用した造血因子の発現クローニング」、20分の休憩をはさみ、大阪大学大学院医学系研究科の森下竜一助教授による「非致死性疾患への遺伝子治療の臨床応用」、そして最後に名古屋大学大学院医学研究科の吉田純教授による「名古



創立シンポジウムで挨拶をする新井所長



創立シンポジウムの参加者



最優秀ポスターの表彰式

屋大学での遺伝子治療開発—悪性脳腫瘍に対するインターフェロン遺伝子治療を中心に—についての各々40分間の講演が行なわれた。詳しい講演内容やプログラムについては、医科学研究所ホームページで公開しているのでご覧になっていただきたい。また、1974年以来のシンポジウムのテーマについてもこのページで公開している (<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/>)。

講演会場の医科学研究所講堂は、例年のことであるが、所内外からの多くの参加者で満席となり、立って講演を聴くものもあり、そのため今年は、この講演はアムジェンホールに設けられた別会場にビデオ中継された。

医科研シンポジウムに先立ち、同日講堂で医科学研究所研究成果口頭発表会が行われた。また、5月30日より2日間アムジェンホールにて医科学研究所研究成果ポスター発表会が行なわれた。この創立記念のイベントには300名を越える参加者があり、医科研で研究をしたいという学生も多く見受けられ、ポスターの前で熱心に説明を受ける姿が見られた。そして、61件のポスター発表の中から投票により最優秀ポスターが選ばれ表彰された。この日、気象情報では「雨」と予測されていた天気も「晴れ」に変わり、シンポジウム終了後は恒例の野外パーティーが行なわれた。

(医科学研究所)

### IMSUT幹細胞シンポジウム開催される

6月13(木)、14日(金)に、医科研講堂において「幹細胞シンポジウム—幹細胞から臓器形成まで」を開催した。幹細胞及び再生医学はここ数年高い関心を集めているが、それを反映して産学両方面から500名以上の参加者があり、盛会であった。国外から10名、国内から4名の演者による講演が行われた。クローニング技術による遺伝子欠損ブタの作成、ヒトES細胞から各種系統への分化系の確立などの他に、今回は特に組織幹細胞に重点がおかれ、間葉系幹細胞の確立と臨床応用、筋肉幹細胞とサテライト細胞の関係、肝臓幹細胞の単離と膵臓などへの多分化能、皮膚幹細胞と毛の幹細胞、神経幹細胞と

その応用などの最先端の話題が紹介された。またさらに三次元立体構造を持つ臓器形成へどう取り組むかを考えるため、心臓や腎臓の形成機構の基礎的な発表も行われた。各講演の後には活発な議論が行われ、休憩時間にも演者と参加者との間に議論が続いた。この領域は非常に臨床応用に近いため、動物モデルを使用した発表や実際の人への応用も数多く発表されたが、また同時にさらなる基礎研究の必要性を痛感させられる機会でもあった。患者にあわせた治療が可能ということでは魅力的だが、



開会の辞を述べる新井所長



質疑応答



集合写真

逆にコストの面で実現性を危ぶむ声も少なくない。ES細胞を使う場合には倫理面で大きな障害も存在する。これらの問題を解決していくことが真の臨床応用に結びつくと思われる。

Amgen後援による幹細胞シンポジウムは今回で4回目であり、長年の御協力に感謝したい。1996年に1回目のシンポジウムを開催したときには今日のような幹細胞ブームが起きるとは予想しておらず、うれしい限りである。またシンポジウムの直後にサッカーの日本対ロシア戦をみて、二重に充実して帰った参加者も多かったとみられる。海外の演者も日本の異常に盛り上がった雰囲気を楽しんだようである。

(医科学研究所)

### 生産技術研究所一般公開行われる

平成14年6月6日(木)、7日(金)の2日間にわたって生産技術研究所の一般公開が行われ、キャンパス内にある先端科学技術研究センターをはじめとする研究施設との同時開催でのオープンキャンパスとして行われた。

両日併せて4,558名の参加者がキャンパスを訪れ、各研究室においては研究者がパネルなどを使い、わかりやすく研究内容を説明し、参加者は、興味深く説明を聞いたり、熱心に質問をしていた。また、研究棟内の会議室

において、4名の本所教官による講演会が開かれ、立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。生産技術研究所では、毎年6月の第一週の木曜日・金曜日の2日間一般公開を行っており、最先端の研究に一般の方が触れる機会を提供している。

(生産技術研究所)

### 平成14年度第1回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される

平成14年度第1回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」が、去る6月18日(火)午後4時30分から、本会関係者、部局代表者、指導教官等臨席の下に本部庁舎特別会議室で開催された。

平成10年7月に設立された東京大学外国人留学生後援会は、「本学における留学生交流を促進するため、本学留学生への経済的支援、留学生と教職員・地域社会との交流促進、本学派遣の日本人学生等が事故等に遭った場合への援助等を行うこと」を目的として活動してきたが、このたび第7期奨学生20名(月額5万円・支給期間：平成14年4月～平成15年3月)が決定され、当日は会長である佐々木総長より奨学生へ一人ずつ、奨学生証書が手渡された。

次いで、佐々木会長より「本年度最初の奨学生採用者



研究内容の説明を聞く参加者たち



第7期奨学生20名との記念撮影



講演会の様子



奨学生証書授与式



数は昨年と比べて20名に倍増されたこと、また、本奨学金が、教職員、卒業生等の方々の善意によるものであるため、奨学生となった誇りを持って研究・勉学に励んでほしい。」との挨拶があり、その後、奨学生を代表して、大学院経済学研究科・オウ エイリンさんより「皆さんの期待に答えられるように勉学に励む」旨の感謝と決意の言葉が述べられました。

平成11年度以来、本後援会奨学生として80名の奨学生を採用することができましたのは、多くの教職員等会員の方々のご協力の賜物であるとして、東京大学外国人留学生後援会では心から感謝の意を表明するとともに、本学の私費留学生の現状を考えると本後援会活動の拡充が必要であることから、本学教職員の方々の一層の加入が望まれるところです。

問い合わせ先

東京大学外国人留学生後援会事務局

(研究協力部留学生課留学生第二掛内・内線22372)

(東京大学外国人留学生後援会)

## 国立大学留学生センター留学生指導担当研究協議会開催される

留学生センターでは、6月11日(火)、本部庁舎12階大会議室において国立大学留学生センター留学生指導担当研究協議会を開催した。

この協議会は、国立大学の留学生センターの主として留学生指導担当部門の教官が一堂に会して、留学生指導教育体制等の当面する諸問題について研究することを目的に毎年開かれているもので、今年も、44大学から62名が参加、ほかに学内の留学生関係担当教官7名も陪席した。

小島留学生センター長の挨拶、廣渡副学長による、国立大学の法人化と留学生政策についてと題する講演のあと協議に入り、本学留学生センターの栖原教授、マーフィ重松助教からそれぞれ、留学生指導部門の意義を問う、指導担当部門の大学間ネットワークは必要か、という問題提起型の話題提供がなされ、これを受けて、全



話題提供する栖原教授

参加者が7グループにわかれてKJ法によるディスカッションを行ったあと、グループごとの発表、まとめ、質疑応答と続き、約4時間、実りある研究協議会が持たれた。

その後、学生会分館にところを移して、懇談会が催され、一同、盛んに交流、懇親にいそしみ、和やかなうちに散会した。

(留学生センター)

## CCR産学連携シンポジウム開催される

CCRのⅡ期棟の完成を記念して6月6日(木)シンポジウムが開催された。当日は、佐々木総長を初め、磯谷文部科学省技術移転推進室長、西尾生産技術研究所長、南谷先端科学技術研究センター長など、産官学・報道各方面から150名の参加となった。

CCRでは、Ⅰ期棟に隣接して同規模のⅡ期棟が前年度末完成した。これにより5,000m<sup>2</sup>の共同研究施設となり、産学連携活動が一層本格化した。今年度からは12件の産学連携およびインキュベーション研究プロジェクトが開始した。

当日は、CCRのインキュベーション制度、産学連携およびインキュベーション研究プロジェクトの概要、



佐々木総長による挨拶



磯谷文部科学省技術移転推進室長



シンポジウムの参加者

CCRリエゾンプログラムなどの紹介があった。

(国際・産学共同研究センター)

## ≡ 掲示板 ≡

### 大学史史料室閲覧業務再開のお知らせ

大学史史料室改修工事のため、一時中止しておりました閲覧業務を7月17日(水)より再開いたします。

当面の間、閲覧日は毎週水曜日(9:30~12:00、13:00~16:30)とさせていただきます。

ご希望の方は、電話連絡の上、お越し下さい。

(03-5841-2077、内線22077)

### 山上会館・山上会館龍岡門別館の夏季休館について

山上会館・山上会館龍岡門別館では、下記のとおり休館とさせていただきます。

記

休館日：平成14年8月11日(日)～8月18日(日)

### 山上会館研究室(宿泊室)の臨時閉室について

山上会館研究室(宿泊室)は給水管等の補修工事のため、下記の期間、臨時閉室する予定です。工事期間中はご宿泊の予約はできませんので、ご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

記

工事場所：山上会館研究室

工事期間：平成14年11月25日(月)～12月27日(金)

### 学生相談所主催 「アサーション(自己表現)セミナー」のお知らせ

学生相談所では、夏休みの2日間を使って、専門の講師をお呼びし、「アサーション・トレーニング入門」のセミナーを開催します。

自分の本当の感情を踏まえつつ、しかも相手にも配慮しながら、自分を伝えるにはどうしたらよいのでしょうか?本セミナーは、講義や個人作業、グループ作業を通じて、自分も相手も大切にしたい自己表現を身に付けることを目指したセミナーです。自分自身の自己表現のしかたを見直す機会にもなると思います。

今回は「入門編」ですが、基本的なことが理解できれば、セミナーが終わってからも、日常的に練習することも可能です。自己表現はどのような領域に進むにしろ、できて損なことはありませんので、この機会に参加してみたいかがでしょうか。

日時：2002年8月9日（金）、10日（土）

10：00～17：00

\* 2日間の通い形式

定員：20名（定員になり次第締め切ります。）

場所：御殿下記念館・研修室

費用：1,000円（資料代）

スタッフ：園田 雅代（創価大学）

星野 一郎（立教大学）

\* 2日とも全日参加できる方のみ参加とします。

申し込み、問い合わせは、本郷・学生相談所まで。

(03-3816-2759、内線22516)

## 第17回工学部・工学系研究科技術発表会のお知らせ

工学部・工学系研究科では技術系職員が教育・研究に関わる技術業務を遂行する過程で得られた成果を発表し、そのレベルを一層高めるための相互研鑽の場として、本年も「工学部・工学系研究科技術発表会」を下記に開催いたします。

聴衆制限はありません。より多くの皆様の聴講を希望いたしております。尚、技術発表会については工学部・工学系研究科のホームページでご覧いただけます。

<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/news/contfr02.html>

日時：7月25日（木）10：00時開催

会場：工学部8号館81号講義室

内容：特別講演、口頭発表、ポスター発表、パネルディスカッション

特別講演：「起点としての大学」

小宮山 宏（化学システム専攻・教授）

14：00～15：00

問い合わせ先：工学系研究科総務課厚生掛気付

技術発表会実行委員会（26019）

（大学院工学系研究科・工学部）

## 第4回樹芸研究所体験セミナー『森の夏休み』参加者募集!!

伊豆半島の南端にある大学院農学生命科学研究科附属樹芸研究所では、東京大学の教職員や学生の皆様とご家族を対象に毎年夏休みに研究所の森林内で自然体験型のセミナーを行っています。

照葉樹を中心とした様々な種類の樹木や現在進めている研究をご紹介します。森林と楽しくふれあう時をご提供します。南伊豆の自然の中で夏の1日を過ごしてみませんか。

たくさんの方の参加をお待ちしています。

日時：8月19日（月）10：00～15：00

内容：自然観察・昆虫観察・炭工作などお子さまも楽しめる内容です。

募集人数：30名（先着順）

申し込み窓口：学生部体育第一掛（03-5841-2510）窓口にセミナーに関するパンフレットをご用意しています。

\* 宿泊は運動会スポーツア下賀茂をご利用ください。（申し込み窓口で予約）

\* 日帰り等で参加ご希望の方、その他お問い合わせは、樹芸研究所浅野（0558-62-0021）までお願いいたします。

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jugei/>

（大学院農学生命科学研究科附属樹芸研究所）

## 教養学部で第94回オルガン演奏会の開催

レクチャー・コンサート《バッハ・カンタータの世界》

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、今学期総合科目「音楽論」でカンタータについて講義をなさっている磯山雅先生によるレクチャーを交えながら、オルガニストの今井奈緒子さんとソプラノの細矢愛さんによるバッハのカンタータの世界をお楽しみいただけます。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧下さい。

<http://platon.c.u-tokyo.ac.jp/900j.html>

日時 7月10日（水）午後6時30分開演

場所 教養学部900番教室

曲目 J・S・バッハ

プレリュード 変ホ長調（BWV.552）

カンタータ 第51番「いずこの地にても神を歓呼せよ」（BWV.51）よりレチタティーヴォとアリア「至高者よ、あなたの慈しみを朝ごとに新たにしてください」

「アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帖第2巻」よりジョヴァンニのアリア「あなたの心をください」（BWV.518）

6つのソナタ 第3番 ニ短調（BWV.527）



フーガ 変ホ長調 (BWV.552)

レクチャー：磯山 雅

オルガン：今井 奈緒子

ソプラノ：細矢 愛

(大学院総合文化研究科・教養学部)

## 「教養学部報」第458（7月3日）号の発行

——教官による、学生のための学内新聞——

陶山 明：ゲノムとDNAコンピュータ

異なる概念の合成

塚本 明子：PINA IN KOMABAを終えて

上原譽志夫：保健センター駒場支所における共通IDと

UT Card利用の現況

〈本の棚〉

澤田 康幸：瀬地山角著『お笑いジェンダー論』

村田 純一：門脇俊介著『理由の空間の現象学表象的志

向性批判』

「理由の空間」の現象学

斎藤 兆史：三浦篤著『まなざしのレッスン

①西洋伝統絵画』

〈時に沿って〉

吉川 豊：実験屋

志甫 淳：学問に触れる

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。

バックナンバーもあります。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

## 第4回人工物工学コロキウム

ライフサイクル工学の展開

開催日時：7月22日(月) 13:00~18:30

会場：先端科学技術研究センター4号館

2階 講堂

主催：人工物工学研究センター

共催：大学院工学系研究科

人工物工学研究センター客員研究員発表会：18:30~

於：人工物工学研究センター

人工物工学研究センターは、平成14年度より第Ⅱ期に入りました。その第1回目のコロキウムとして、今回は大学と社会との関係を意識して、コロキウムを企画しました。人工物のライフサイクル全体を視野に入れた、大量かつ多種類の人工物の生産・管理の最適化と経済性、安全性、環境調和性の維持を同時に実現すること、ハードウェアを基軸にした旧来のエンジニアリングの枠組みを再編・再評価し、情報系や人間系に関わる配慮が必要なこと、さまざまな課題が山積している現場には実践可能な技術体系を提示する必要があること等の問題提起がなされ、データの獲得、組織化と活用といった工学基礎に立ち戻った計測が必要と考えられるようになってまいりました。そこで、本コロキウムでは、人工物のライフサイクルに関わるさまざまな問題について各方面の専門家からご講演をいただき、旧来のエンジニアリングからの脱皮をめざす新しい工学の展開について討論する場を設定いたしましたので御案内致します。

プログラム

12:30 受付開始(開場)

13:00 開会挨拶—新人工物工学研究センター—

新井民夫(人工物工学研究センター長)

●特別講演 座長：岩田修一

13:20 「私と原子力の開発」

池亀 亮(東京電力株式会社 技術最高顧問)

●講演1 問題設定 座長：岩田修一

13:50 「断片的知識の情報化戦略」

堀 浩一(先端科学技術研究センター)

14:20 「Life Cycle工学と抽象化の理念」

柳生孝昭(日本ユニシス)

\*14:50~15:00 休憩

●講演2 挑戦事例 座長：下村芳樹

15:00 「グリーンデザインデータベースと産業競争力」

芝池成人(新エネルギー財団)

15:30 「廃棄物の最終処分—微粒子をめぐる話題—」

長崎晋也(新領域創成科学研究科)

16:00 「環境の時代における製品開発戦略」

山際康之(ソニー)

16:30 「インバース・マニユファクチャリング」

梅田 靖(東京都立大学)

\*17:00~17:10 休憩

●講演3 技術コア 座長：上田完次

17:10 「データの獲得、組織化と活用—原子力分野に

おける事例研究からの普遍化」

七丈直弘（情報学環）

17：40 「人工物工学におけるライフサイクル工学の展開」

高橋浩之（人工物工学研究センター）

●講演4 総括

18：10 コロキウムの総括

岩田修一（人工物工学研究センター）

18：20 閉会挨拶

新井民夫（人工物工学研究センター長）

◎参加お申し込み・お問い合わせ先

人工物工学研究センター内

第4回人工物工学コロキウム事務局

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1

FAX：03-3467-0648

e-mail：race-colloquium@race.u-tokyo.ac.jp

http://www.race.u-tokyo.ac.jp/4th\_col/

◎コロキウム参加費：無料

参加ご希望の方は、名前・所属・連絡先（住所、電話、Fax、電子メール等）を明記の上、7月14日（日）迄に上記シンポジウム事務局までお申し込み下さい。勝手ながら定員120名に限らせて頂きます。

（人工物工学研究センター）

『あなたのゴミは  
みんなのゴミです』



## ≡ 事務連絡 ≡

## 人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14. 7. 1	安 雪 暉	(退 職) 平成14年6月30日限り任期満了により退職した	大学院工学系研究科助教授
14. 6. 30	TOBY, RONALD PAUL 〃 富 山 哲 男	(辞 職) 辞 職 〃	大学院人文社会系研究科附属文化交流研究 施設教授 人工物工学研究センター教授
14. 7. 1	山 田 一 郎	(採 用) 大学院工学系研究科教授	NTT生活環境研究所所長
14. 6. 16	深 見 希代子	(昇 任) 医科学研究所助教授	医科学研究所講師
〃	加 藤 朗	情報基盤センター助教授	情報基盤センター助手
14. 7. 1	伊 藤 洋 一	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科助教授
14. 7. 1	伊福部 達	(転 任) 先端科学技術研究センター教授	北海道大学電子科学研究所教授
〃	遠 藤 昌 宏	気候システム研究センター教授	気象研究所海洋研究部第二研究室長
14. 7. 1	飯 塚 堯 介	(併 任) 留学生センター長	大学院農学生命科学研究科教授
〃	坂 内 正 夫	生産技術研究所附属概念情報工学研究センター教授	国立情報学研究所教授

## 言葉と立場

アメリカの大学に留学していたとき、英語がうまく話せない日本人の学生がたくさんいた。日本語で話すと頭の良い人なのに、英語ではうまくいえないので、なんだか間が抜けてしまう。人によっては、短気なのか忍耐力が乏しいのか、最後まで聞かずに話をさえぎる人もいた。ひどいな、と思ったし、しょうがないかな、と思うこともあった。英語の不出来が頭の不出来のように写るわけだ。

ぼくは帰国子女だったので英語は話すことができた。でも、何かいつも、成績にゲタを履かせてもらっているような居心地の悪さがあった。英語の下手な留学生に優しく接するアメリカ人には、不必要に反感を感じた。英語はうまく話すけど中味はない人がもてはやされると、やるせない思いで一杯になった。

東京大学で教えるようになって、日本語のうまく話せない学生を教えることが増えた。日本人の学生はみな優しく、気持ちよく留学生に接



していたけれど、なかには体の悪い人の面倒を見るような、妙に世話焼きめいた人もいた。留学生の日本人に優しいアメリカ人に会うと自分の気持ちがひねこびてしまった、そのときの気持ちを思いだした。

ところが、英語で話すと能弁になる学生がいる。急に頭に血が通い、枯れた水路に水がほとぼしるように、生き生きと思惟が表現されるのである。アメリカ人やイギリス人に限らず、フランスや中国から来る人も含め、日本語よりも英語の得意なひとがいるからだ。

そんなとき、日本人の心優しい学生たちは、びっくりした顔をする。日本語を使うときに保っていた優位が壊れるからだ。そして、言葉の得意によって自分と相手の関係がどれほど左右されてきたのかに気づくのだ。

今度、英語だけで通す授業をはじめた。英語を公用語にしようとか、英語で教えるべきだとか、そんなお節介なことではない。でも、言葉を変えることで学生が自分の位置を見直すきっかけになるのなら、やりがいのあることだ、とも思う。

藤原帰一（大学院法学政治学研究科）

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

## ◇広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL：<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1243

2002年7月10日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>